

## ルーフドレン

評価の内容（申請資料に基づき、次の事項を確認している。）

### 1. 評価対象建築材料

評価の対象としたルーフドレンは、標準仕様書 1 3 章 5 節に規定するルーフドレンとし、コンクリート打ち込みタイプを対象としている。

種類と呼び径

種 類		呼 び 径 (A)
ろく屋根用たて形 I 型	ねじ込み式	80, 100, 125, 150
ろく屋根用横形 I 型	ねじ込み式	80, 100, 125, 150
バルコニー中継用	ねじ込み式	50, 80, 100
	差し込み式	50, 75, 100
バルコニー用	ねじ込み式	50, 80, 100
	差し込み式	50, 75, 100

### 2. 品質・性能等

#### (1) 材質等

規定された主要な資材の材質および資材メーカーから製造所への納入ルートを確認している。

項 目	材 質 等
本体、防水押さえ、ストレーナ	JIS G 5501 (1995)「ねずみ鉄品」の FC150、FC200
防水押さえ締付けボルト	ステンレス鋼線：JIS G 4309 (2013)「ステンレス鋼線」の SUS304 黄銅線：JIS H 3260 (2018)「銅及び銅合金の線」の C2700W 快削黄銅線：JIS H 3260 の C3601W、C3602W 快削黄銅棒：JIS H 3250 (2021)「銅及び銅合金の棒」の C3601B、C3602B の類
アンカーボルト	軟鋼線材：JIS G 3505 (2017)「軟鋼線材」の SWRM8 鋼材：JIS G 3101 (2020)「一般構造用圧延鋼材」の SS400
塗装用塗料	樹脂塗装又は水溶性合成樹脂焼付塗装

#### (2) 品 質

(イ) 性能は、以下の内容を確認している。

- (a) ストレーナの有効開口面積は、流出側に接続する排水管の断面積の 1.5 倍以上とする。
- (b) 配管接続部、防水層取り合い部は、漏水のおこらない構造とする。

(ロ) 外観等は、以下の内容を確認している。

- (a) ルーフドレンの内外は、滑らかで、割れおよび有害なキズ、イバリ、砂付きなどの欠点があるてはならない。
- (b) ルーフドレンは、内外面とも塗装しなければならない。
- (c) 塗装を行う前に、内外面ともさび、スケール、その他の付着物を除去しなければならない。
- (d) 塗装面には、泡、膨れ、はがれ、塗りだまり、塗り残し、異物の付着、著しい粘着その他の欠点がなく、滑らかでなければならない。

## ルーフドレン

(e) 製品には、製造業者名またはその略号を表示しなければならない。

### (3) 許容差および形状寸法

(イ) ねじ込み式たて形および横形の流出側の端部許容差は、以下の内容を確認している。(ねじ部長さは最小を示す。)

[単位：mm]

呼び径 (A)	基準径	内径 (許容差)	ねじ部長さ
80	87.884	80 以上	17 以上
100	113.030	100 以上	21 以上
125	138.430	125 以上	23 以上
150	163.830	150 以上	24 以上

(ロ) 形状寸法および肉厚は、JCW 301 (2018) の付表 1、4、6～9 に示された各種類の寸法表の規定値との整合を確認している。

ただし、JCW 301 に規定されていない部分の形状寸法 (肉厚は除く) は、(ハ) による。

(ハ) 鋳鉄品普通許容差は、寸法の許容差 JIS B 0403 (1995) 「鋳造品—寸法公差及び削り代方式」に規定する CT 11 級の規定との整合を確認している。

長さの普通許容差		[単位：mm]	
寸法の区分	許容差	寸法の区分	許容差
10 以下	±1.4	63 を越え 100 以下	±2.2
10 を越え 16 以下	±1.5	100 を越え 160 以下	±2.5
16 を越え 25 以下	±1.6	160 を越え 250 以下	±2.8
25 を越え 40 以下	±1.8	250 を越え 400 以下	±3.1
40 を越え 63 以下	±2.0	400 を越え 630 以下	±3.5

用語：JCW とは、日本鋳鉄ふた・排水器具工業会規格を示し、301 は、その規格の内、ルーフドレンの寸法等の規格を示している。

(ニ) 張掛け幅 (つばの幅)

100 mm 以上とすることを確認している。

### (4) 試験性能

試験性能は、以下の内容を、**実施要領**に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

項目	品質・性能	
引張り強さ	FC 150 の場合	150 N/mm <sup>2</sup> 以上
	FC 200 の場合	200 N/mm <sup>2</sup> 以上
硬さ	FC 150 の場合	212 HB (HBW) 以下
	FC 200 の場合	223 HB (HBW) 以下

## 3. 試験方法

(1) 引張り強さについては、JIS Z 2241 (2011) 「金属材料引張試験方法」による。

(2) 硬さについては、JIS Z 2243-1、2 (2018) 「ブリネル硬さ試験—試験方法」による。